

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372500856
法人名	有限会社 富士松
事業所名	グループホーム輪楽笑
訪問調査日	平成20年1月16日
評価確定日	平成20年2月14日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2372500856
法人名	有限会社 富士松
事業所名	グループホーム 輪楽笑
所在地	春日井市白山町5丁目5番地 (電話) 0568-51-8886
評価機関名	愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成20年1月16日

【情報提供票より】 (19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年2月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	9,000 円	昼食	9,000 円
	夕食	9,000 円	おやつ	3,000 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (12月25日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82、8 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白山外科クリニック 三好歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地を活かし、名古屋コーチンの飼育やみかんやイチゴ、季節の野菜が栽培され、入居者が季節を感じ、楽しめるよう工夫している。ホーム内は観葉植物など多くの花があり、温かい雰囲気を作っており、職員は理念を共有し、ホーム名のように誰もが笑顔のある生活ができるように支援している。運営推進会議に入居者や家族全員に呼びかけ、地域代表者や市の担当者などと質の向上に向け意見を出しあい、改善をすぐ実行に移すなど取り組みをしている。外出にはバリアフリーの遅れやトイレの問題があるが、職員が協力して旅行に出かけるなど行事も多く、残存能力維持するサービスを心がけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目で、危険物の保管は鍵のかかる場所で管理し、口腔ケアは毎食後の歯磨きを習慣づけるよう支援している。献立にはカロリーを表示し、栄養摂取状況を把握するなど改善されている。入浴時間については検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全ての職員で評価にあたり、グループホームでの火災事故の報道などから避難訓練を毎週実施するなど、質の向上に取り組んでおり、入浴時間の課題については意見交換の中から改善を検討していく姿勢である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	理念の説明や入居者の現状の報告、認知症への理解などを話し合い、12月の会議にはメンバーだけでなく全ての入居者や家族に呼びかけ、イベントを組み合わせるなど工夫して意見交換している。中学生の介護体験や地域での行事の参加も増えている。地域包括支援センターから空き状況のリアルタイムの報告を受けるなど、連携を深める要望も出ている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居前には体験入居で、入居後は家族の宿泊や訪問支援で出来る限り不安を解消できるよう取り組み、面会時の意見交換や意見箱を設置し希望や苦情など聞くようにしている。毎月ホームだよりを送付し、入居者の様子など報告し、本人や家族の希望などケアプランに活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアの受入れや外部の人も自由に記入できる意見箱を設置しており、地域住民の一員として老人会や夏祭り、清掃作業などに参加している。ホームの行事にも気軽に参加してもらうよう年間行事を検討している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で孤立せずゆっくり、楽しく、みんなで暮らせることを基本理念としており、ホームの名前のように「自分らしく、笑顔と共にわっはっは」と分かりやすく掲示し支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内にユニークな表現で掲示しており、運営推進会議やミーティングの中で繰り返し伝え、理念を共有し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として老人会や夏祭りへの参加や清掃作業に加わり、挨拶を交わす人を広め、中学生のホーム体験を受入れている。入居者は孫と接するように歓迎し、中学生も介護の理解を深める良い経験となるなど交流が進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価し、外部評価の結果から気づかなかった点を再確認し、改善方法を提案し、即実行している。危険物の保管や毎食後の歯磨き支援、カロリー表示と栄養状態の把握など改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をホームのイベントと組み合わせ、通常のメンバーに加え、入居者と家族全員に呼びかけ、現状報告や意見交換、認知症の理解を呼びかけるなど実施している。地域包括支援センターから空き情報の提供など意見が出されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で連携が深まっており、電話連絡などしている。中学生の体験学習の受入れなど成果が見られる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行しているホーム便りは、行事や日常生活を詳しく報告しており、健康状態や入居者同士の会話や行動など、ホーム内の様子をよく知ることが出来る。金銭報告も毎月報告して面会時に記録簿に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族に意見を聞くようにしているほか、運営推進会議に全ての家族に参加を呼びかけ、意見交換し要望など聞くようにしている。面会に来れなかった家族には電話で様子を伝え、意見など聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	悩みがあれば相談しやすい環境を作り、離職につながらないように心がけ、法人内にグループホームが二つあり協力体制はあるが、ホームの職員を固定している。職員の異動で入居者が不安にならないように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規に入った職員は研修を行っており、資格取得を目指す職員にはレベルアップの研修など常勤、非常勤全ての職員に随時研修に参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム会議や研修時に交流の機会を作り、話し合っているほか、法人内でも情報交換するなどして質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に体験入所してもらい、入居後は家族に宿泊してもらうなど早く馴染んでもらうよう取り組んでいる。家族が利用できる部屋や寝具も用意されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も家族であるという認識で接しており、献立の知恵を借ったり、会話に応じるなど支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出好きな人やお洒落な人などそれぞれ希望や意向があり、家族と相談しながら出来る限り沿えるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日常の様子や家族の意見、要望など記録しており、職員の意見を聞き、目標を作ってプランが作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにプランを見直し、変化があれば家族に報告し見直しがなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内のマイクロバスを利用して外食や花見など外出の支援をしたり、宿泊する寝具やベッドの提供も可能である。広い敷地を生かして、イベントに住民の参加を呼びかけ、認知症の理解を深めてもらう企画もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は毎週訪問しており、1ヶ月に一度は定期健診も実施している。職員は感染症の大変さを理解しており、シーツは毎日取り替え予防にも熱心である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族、医者と話し合いを行い、本人本位に対応している。職員も共通認識をもって対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	声をかけて居室に出入りしたり、会話は入居者を尊重し、丁寧にしており、記録の扱いも管理や保管に問題はない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	準備が早くできれば食事をしたり、テレビを楽しんだり、自分のペースで過ごしている。入居者の希望に沿って楽しい企画を計画するなど支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けはその人が出来ることを自分から自然に行っており、ホームの庭で栽培、収穫した青物が和え物として献立に加えるなど楽しむことができる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼食後から好きな時間に入浴している。一日おきに入浴しているが、希望があれば毎日でも可能である。職員が手薄になるため、夕食後は入浴の対応ができない。	○	入居者の希望を聞き、就寝前に希望があれば可能な支援が出来るように手薄となる時間帯の職員の補充や時間帯の変更など工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を把握しており、趣味の絵手紙や習字が掲示されていたり、花好きな人はホームで花を育てたり、みかんやイチゴの収穫も楽しみの一つとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	皆で散歩したり、外出に出かけるなど日常的に取り組んでいる。希望があれば個々の買い物も職員同伴で行っている他、バスでの遠出も実施されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は誰もが気軽にホームに来てくれることを望んでおり、玄関は音のセンサーで出入りを感知し、日中は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎週避難訓練を実施し、出入り口には番号を表示し、タンバリンの音で何番出口から避難と呼びかけ、いざという時戸惑わないよう習慣付けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表にカロリーも表示し、食事の状態、水分摂取量など記録し、栄養不足や水分不足にならないよう支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく清潔で観葉植物や季節の草花が目を楽しませてくれる。廊下も広く共用の和室では家族が寝泊りも可能で寝具も用意されている。入居者も食後は居間でゆっくりくつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	何十年も使っていたと思われる家具や写真、テレビ、絵手紙など思い思いに配置し、くつろげる空間になっている。各部屋に洗面台があるがゆとりのある広さである。		

※  は、重点項目。